

筑波大学産婦人科へようこそ！

筑波大学産婦人科では、女性の生涯のトータルサポートを行う女性総合診療科として、
臨床・研究にともに取り組んでいく仲間を心から歓迎します
我々と一緒に充実した毎日を過ごしませんか？

産婦人科学の魅力って、何？

産婦人科学は、生理学、生化学、免疫学、病理学などさまざまな基礎医学を背景に成り立ち、大きく周産期医学、婦人科腫瘍学、生殖医学、女性医学の4つに分けられます。最近では再生医療など生命科学の最先端領域にも深く関わっている学問です。

その臨床は、女性の生涯をトータルサポートする診療科であり、内科的・外科的な面を同時に持つ女性総合診療科です。取り扱う領域は非常に幅広く、また診断から治療、予防まですべてを取り扱う数少ない診療科のひとつです。そして何よりも、新しい生命の誕生に深く関わる唯一の診療科です。日々得られる感動は、他科では決して体験できません！

筑波大学産婦人科のセールスポイントは？

当科のセールスポイントは数え切れないほどあります。第一に症例の豊富さです。周産期医療と婦人科がん診療においては、ともに全国の大学で1位2位を争う症例数を誇ります。その中で症例として1例1例を大事にしながら指導が行われます。当科の指導医はそれぞれの専門領域において、様々な技術を持つエキスパートとして責任を持って指導を行っています。

また、ONとOFFがはっきりとしている生活もセールスポイントです。働くときは全力で働き休むときは全力で休む、がモットーです。

後期研修プログラムはどんな感じ？

4年間の研修は、筑波大学附属病院ならびに茨城県内もしくは東京都内の当科関連病院にて、1年ごとのローテーションを基本として行います。

大学においては、婦人科悪性腫瘍および合併症妊娠や胎児異常、産科救急などを中心に研修します。

一方、大学外の関連病院においては、一般婦人科疾患および正常妊娠・分娩・産褥や正常新生児の管理、高度な生殖補助医療技術を含む不妊診療を中心に研修します。患者さんの外来管理はもちろん、入院から治療方針の立案、実際の治療、退院まで、上級医の助言を得ながら自ら主体的に行う充実した研修生活となります。

これらの研修を通じて、きわめて稀な疾患を除いて、ほとんどすべての産婦人科疾患を必ず経験することができます。また、術者としてすべての基本的産婦人科手術を行うことができます。

取得できる資格は何？

後期研修4年目の途中で産婦人科専門医の資格を取得できます。

産婦人科専門医とは、日本産科婦人科学会が指定する病院で産婦人科の臨床を研修し、学会が実施する専門医認定試験に合格した産婦人科医です。産婦人科医として幅広い知識と臨床経験が要求されますが、当科で研修を行えばその取得は容易です。現在まで当科で後期研修を行った全員が1回目の受験で合格しています。

さらにその後、サブスペシャリティの資格として日本婦人科腫瘍学会専門医、日本周産期・新生児医学会母体・胎児専門医、日本臨床細胞学会細胞診指導医、臨床遺伝専門医制度専門医など、産婦人科関連のすべて専門医資格の取得が可能な数少ない大学のひとつです。

研究とかもできるんですか？

もちろんできます。たとえ短期間であっても、学問を追

求して論理的な考え方を身につける時期を持つことは、医師の資質を養う上でとても大切です。また将来の自らの専門分野を確立してもらうためにも、上級医が責任をもって臨床研究や基礎研究の指導を行っています。後期研修の途中もしくは修了後に大学院に進学したり、研究生となって研究に専念することも可能です。

現在までに卒後10年程度でほとんどの医師が医学博士号を取得しています。

産婦人科医って大変じゃないですか？

もちろん楽ではありません。でも、楽な診療科なんてないと思いますし、後期研修の4年間は、その後の医師としての一生を決める最も大切な期間ですから、忙しくても充実した、そして楽しい研修生活を送ってもらえるように、診療科として職場環境の充実や後期研修医の処遇改善に努力をしています。

職場環境の充実や処遇改善って？

筑波大学附属病院では分娩取扱手当が支給されており、また時間外診療手当の増額もあって、以前より給与は大幅に増えています。また、当直翌日の午後は帰宅してゆっくりと休養をとってもらっています。週に少なくとも1日は完全なOFFとなります。関連病院の多くでも分娩取扱手当が支給されており、時間外報酬もきちんと得ることができます。夏季休暇として2週間の完全な休暇をとることを義務(!)としています。

もちろん、職場環境の充実や処遇改善として最も大切なことは、指導的立場の上級医達の意識だと考えています。古い徒弟制度のような意識での指導は、研修医に精神的な疲労を与えるだけです。そうした古い意識を持った指導医はひとりもいません。

女性医師の出産や育児は？

現在全国で新しく産婦人科後期研修を始める医師の3人に2人は女性です。当科も例外ではありませんので、出産・育児と仕事を両立することができる環境を作っています。

現在筑波大学附属病院に勤務している女性医師、あるいは大学院生のほとんどが結婚しており、また多くが育児と仕事を両立させて働いたり研究を行っています。何よりも、女性のためにある診療科ですから安心してください！

男性医師の出番はあるの？

最近男子学生さんから、「やっぱり産婦人科医は女性の方が望まれているのですか？」という言葉がよく聞かれますが、患者さんから本当に求められているのは、優しく誠実で腕のいい医師なのです。性別は全く関係ありません。

医学というのは患者さんの苦しみを理解し、共感して、治療するための方法論であり、それを実践するのが医療です。患者さんのために知識を積み上げ、技術を磨き、一生懸命医療を行う医師がよい医師なのです。そこには女性も男性もありません

吉川裕之教授ってどんな人？

学生さんの印象は「よくしゃべる先生」だと思いますが、実際よくしゃべります(笑)。ただそれは、産婦人科学のすべての分野について非常に知識が豊富であるからです。特に、わが国の婦人科腫瘍学の権威として全国に知られています。



まさかの両立。

「豊富な症例で実力をつける」と「英気をやしなう」。

筑波大学産婦人科の後期研修プログラムは、このふたつの共存を実現。

私たちは、きちんと働き、きちんと休む

新しい産婦人科医像の確立を目指しています。

まずはwebサイトで、私たちのプログラムをご覧ください。

筑波大学 産婦人科

検索

筑波大学産婦人科 後期専門研修・産科特別初期臨床研修プログラム 産婦人科エキスパートコース募集

連絡先：水口剛雄（研修担当）
e-mail：obgyn@md.tsukuba.ac.jp

文部科学省大学改革推進補助金 周産期医療環境整備事業（人材養成環境整備）「地域と大学の連携による周産期人材育成事業」